

要請番号 (JL02117A03)

募集終了



国名	職種コード 職種	年齢制限	活動形態	区分	派遣期間	派遣隊次
カンボジア	G115 水泳		個別	交替 2代目	2年	・ 2017/3 ・ 2018/1

【配属機関概要】

1) 受入省庁名 (日本語)

教育青年スポーツ省

2) 配属機関名 (日本語)

カンボジア水泳連盟(オリンピックスタジアム競泳プール)

3) 任地 (プノンペン) JICA事務所の所在地 (プノンペン)

任地からJICA事務所までの交通手段、所要時間 (自転車 で 約 0.2 時間)

4) 配属機関の規模・事業内容

カンボジアオリンピック委員会に加盟する競技者団体である同連盟は、プノンペン市のオリンピックスタジアム内に競泳プール(50m×20m)を所有・管理し、ナショナルチームとして13名の選手を擁している。2016年のリオオリンピックにおいて100m自由形に男性選手1名、50m自由形に女性選手1名を出場させた。また、有望な人材を見出すべく小中学生を対象とした水泳教室を開催し、ジュニアチームとして約20名の生徒が在籍。2013年には同連盟関係者有志の手により、新たな競泳プールがコンボンチャム(プノンペンから120km程離れた地方都市)にも作られ、競技人口の増加と優れた選手の輩出へ向け動いている。

【要請概要】

1) 要請理由・背景

カンボジアへの水泳隊員派遣は1965年まで遡るが、政変や内戦の影響でボランティア派遣自体が長く中断となった経緯があり、その間に人材も施設も大部分が失われてしまった。しかしこの20年ほどの間に復興が進み、競技人口は回復しつつある。未だ東南アジア地域でも上位のレベルには達していないが、水泳連盟が自らの力で選手を育て、オリンピックへも出場するに至っている。明るい見通しが持てるようになってきたこのタイミングで、自らが協力隊員の指導を受けた経歴のある現水泳連盟会長が「さらなるレベルアップを目指し、若い選手や指導者たちに、確かな技術と意欲を持った日本のボランティアから指導を受ける機会を与えたい」という趣旨で要請されている。現在平成27年度3次隊で派遣された協力隊員が、選手指導とコーチ陣の支援にあたっている。

2) 予定されている活動内容 (以下を踏まえ、隊員の経験をもとに関係者と協議して計画を立て、柔軟に内容を変更しながら活動を進めます)

- カンボジア人のコーチと共に、ナショナルチームとジュニアチームの選手たちへの指導・助言を行う。
- 様々な年齢層・レベルの子供に対するレッスンを行い、彼らに適した指導法の提案と実践を行う。
- 前任が取り組んでいる指導書の作成について、引き続き取り組む。

(使用プールは、プノンペン市中心部に位置するオリンピックスタジアム内にある)

3) 隊員が使用する機材の機種名・型式、設備等

上記競泳プール・ロッカールーム・事務局執務スペースの机

4) 配属先同僚及び活動対象者

連盟会長(30代・男性)
20代から30代の選手兼コーチ陣(男女とも)

5) 活動使用言語

クメール語

6) 生活使用言語

クメール語

7) 選考指定言語

【資格条件等】

[免許]：（ ）

[学歴]：（ ） 備考：

[性別]：（ ） 備考：

[経験]：（指導経験）3年以上 備考：選手に対する指導が含まれるため

[参考情報]：

- ・又は競技者経験 (5年以上)

任地での乗物利用の必要性

不要

【地域概況】

[気候]：（熱帯モンスーン気候） 気温：（22～38℃位） [電気]：（不安定）

[通信]：（インターネット可 電話可）

[水道]：（安定）

【特記事項】

資格条件に関して、必須ではないが、日本水泳連盟公認水泳コーチ若しくは水泳指導員の資格を有していることが望ましい。